

〇〇様、ブログの削除についてはどのようにお考えですか？

差出人： 杉本徳久 Sugimoto Norihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時： 2012年1月1日 16:02:04

前略、〇〇様、

杉本徳久です。

何度も連絡していますが、ご返答もご対応もなく無視されておられますが、そのような態度自体が市民社会の一員として問われることであるように思われます。いかがでしょうか。

相変わらず、自分だけが「世間代表」、「市民社会の代表」のつもりになっている杉本氏の思い上がりがよく伝わって来る文面である。無礼かつ違法な恫喝メールを相手に送り付け、それがまともに相手にされなかったからと言って、なぜそれが「市民社会の一員として問われる」態度だという結論に至るのだろうか。物事を論理的な観点からとらえることができず、やたら「市民社会」、「市井の常識」などの言葉を振りかざし、自分だけが「世間代表」のような顔をして、他人を責めるのが杉本流の思考である。だが、市民社会の一員として問われなければならないのは、杉本氏の態度である。気に入らない記事を掲載した執筆者に一方的に恫喝メールを送り付け、おとなしく言う事を聞かなければ個人情報暴露するなど脅すのは違法行為そのもので、まるでヤクザである。そんな振る舞いをしながら、自分は市民社会代表のように自負しているのだから、とことん始末に負えない。

さて、その後、ブログの削除についてはどのようにお考えですか？ このまま開き直られるのであれば、私もあなたの実名を記し、卒業したあなたの大学などに問い合わせするなど、可能な対応をとらなければなりません。事態をこのまま放置はできません。

自分にとって不愉快な事柄や、誰かの沈黙を、少しも忍耐することのできない杉本氏の短気と自己中心性がよく分かる文章である。要するに、構ってもらいたくて仕方がない、たとえ誰かを脅してでも、振り返ってもらいたい、注目されたくて仕方がない、人から無視されると我慢がならず、黙って相手の返答を待つこともできず、次から次へと恫喝メールを送りつけずにいられない。一種の幼児的精神性を感じさせる行動である。

以前、あなたが私との面会を求めた時、私はお断りいたしました。が、もし、あなたが誠実な対応をされるとお約束なさるならば、一度だけ、横浜か東京に来ていただけるのであれば、6日の夕方以降であればお会いする時間をお作りいたします。

私は無理にそれを望んでおりませんが、あなたがそれをご希望ならばということですが、お考えをお聞かせください。

筆者の論稿の中で、面と向かって反論されたことが、よほど精神的に堪えたのだろう、気に入らない記事を一刻も早く削除してもらいたい、そのためならば、何をしても構わないという、なりふり構わぬ焦りが伝わって来る。自分はいくらでもブログで他人を誹謗し、恫喝しながら、自分自身はごく些細な批判にも全く耐えられないのである。

<http://d.hatena.ne.jp/religious/20120101>

申し上げておきますが、私は冗談でああなたの文筆に対して抗議しているわけではありません。

きちんと市民としてふさわしい態度で、適切に行動してください。

よろしくお願ひ申し上げます。

上記で杉本氏が示しているアドレスは、杉本氏のブログ記事であり、そこで杉本氏は筆者の個人情報の暴露を試み、記事内容を無断で引用していた。従って、このアドレスは、「さっさと俺様の気に入らない記事を削除しなければ、こんな風に、いくらでもおまえの個人情報を暴露してやるぞ」という脅しの文脈で載せられていたものである。だが、上記記事は、筆者がプロバイダに権利侵害を訴えたところ、杉本氏の反論を待たずに、プロバイダ側の判断で削除された。

「市民としてふさわしい態度で、適切に行動」していないのは一体、誰なのか。杉本氏は頭を冷やして自分の行動をよく反省してみるべきである。

180001

武蔵野市吉祥寺北町1-5-14

杉本徳久

07050127587